

遠山淳教授略歴および著作目録

遠山淳教授略歴および著作目録

略 歴

- 昭和12年12月 兵庫県姫路市五軒屋敷に生まれる
- 昭和31年3月 兵庫県立龍野高校卒業
- 昭和39年3月 青山学院大学文学部英米文学科卒業
- 昭和39年3月 池坊華道会東京本部（英文編集・翻訳通訳担当）（昭和41年3月まで）
- 昭和41年4月 翻訳業に専従（昭和41年10月）
- 昭和41年11月 東京イングリッシュ・センター企業内教育部教育プログラム課課長（昭和44年3月まで）
- 昭和44年4月 神戸市外国語大学大学院外国語研究科英語学専攻入学
- 昭和44年4月 神戸 YMCA 外国語学校講師
- 昭和45年4月 同校専任講師（主任）となる。
- 昭和48年3月 神戸市外国語大学大学院中退
- 昭和49年9月 英国ウェールズ大学言語学科大学院課程応用言語学専攻（PGD 博士課程進学資格取得）（50年8月まで）
- 昭和51年9月 神戸 YMCA 学院専門学校外国語学科長（昭和54年3月まで）
- 昭和53年4月 桃山学院大学非常勤講師（昭和54年3月まで）
- 昭和54年4月 桃山学院大学経営学部助教授就任（英語担当）および学生国際交流委員会副委員長に就任
- 昭和54年4月 学生国際交流委員長に就任（昭和56年3月まで）
- 昭和63年4月 文学部設置準備委員に就任（平成元年3月まで）

国際文化論集 No37

- 昭和63年4月 教務委員長に就任（平成2年3月まで）
- 平成元年4月 文学部設置により文学部に移る（英語および異文化間コミュニケーション論担当）
- 平成3年4月 文学部教授に昇任
- 平成3年4月 国際センター長に就任（同年5月まで）
- 平成3年5月 学院評議員および学院常務理事に就任。大学移転事業副本部長（建設事業担当）に就任（平成7年5月まで）
- 平成5年4月 大学院文学研究科兼任教授に就任
- 平成6年4月 同志社大学大学院アメリカ研究科非常勤講師（異文化コミュニケーション論担当）（平成7年3月まで）
- 平成7年8月 英国研究留学（オックスフォード大学，バッキンガム大学）（平成8年9月まで）
- 平成8年6月 バッキンガム大学大学院博士課程（英国史専攻）入学在籍（平成11年5月まで）
- 平成10年7月 神田外語大学大学院英語学研究科非常勤講師（比較文化論）集中講義（8月まで）
- 平成11年4月 エクステンション・センター長に就任（12月まで）
- 平成11年12月 立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科（特別講義）集中講義
- 平成11年4月～ 経営学部に移る
- 平成12年4月 外国語教育センター設立準備室副室長に就任（平成13年3月まで）
- 平成13年4月 外国語教育センター長に就任（平成15年3月まで）
- 平成20年3月 定年退職
- 平成20年4月 桃山学院大学名誉教授の称号を受ける

学 会 活 動

- 昭和53年6月 日本コミュニケーション学会に所属（現在に至る）
昭和63年6月 日本コミュニケーション学会関西支部長，編集局長（平成5年まで）
平成11年10月 日本多文化関係学会に所属（現在に至る）
平成11年10月 日本多文化関係学会副会長に就任（平成16年6月まで）
平成14年6月 日本コミュニケーション学会特別賞を受く

主要研究業績書（昭和54年4月桃山学院大学就任以前）

I. 著 書

- 昭和46年 総合英会話教材『Biedree English Serie』（全20巻，テープ全20巻）編集・執筆者代表～(株)千趣会（昭和49年まで）

II. 翻 訳

- 昭和40年 『Ikenobo's Shoka』 翻訳 単独 Ikenobo Institute, New York
昭和41年 『Ikenobo's Rikka』 翻訳 単独 Ikenobo Institute, New York
昭和42年 Fukuda Kazuhiko 著 『Japanese Stone Gardens—Karesansui』
翻訳 単独 Charles E. Tuttle, Vermont

主要研究業績書（桃山学院大学就任以降）

I. 著 書

- 昭和54年4月 『Give Your Speech』 共著（三宅亨氏と）ECC 大阪外語学院
昭和54年7月 『Discuss Your Point』 共著（三宅亨氏と）ECC 大阪外語学院
昭和54年12月 『限りなき前進を』 「第2部第2章「英語教育と比較文化

- 日本人の行動様式と世界理解——」共著 神戸
YMCA
- 昭和55年3月 『Give Your Speech, Book 2』共著（三宅亨氏と）ECC
大阪外語学院
- 昭和55年3月 『Discuss Your Point, Book 2』共著（三宅亨氏と）ECC
大阪外語学院
- 平成4年3月 『国際理解教育のキーワード』共著 有斐閣
- 平成4年6月 『日本コミュニケーション学会基本研究図書 第2巻
日本人のコミュニケーション』共著 桐原書店
- 平成7年5月 『体験的 異文化コミュニケーション』第2部第1章
「否定と肯定～情報代謝モデルを求めて」共著 泰流社
出版
- 平成8年6月 『異文化コミュニケーション・キーワード集』共編 神
田外語大学異文化コミュニケーション研究所
- 平成9年1月 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』共編著
有斐閣
- 平成12年4月 『多文化共生社会への展望』共編著 日本評論社
- 平成13年3月 『異文化コミュニケーションの理論 新しいパラダイム
を求めて』有斐閣 共編著
- 平成14年3月 『English Here & Now at Momoyama』共編著 桃山学
院大学外国語教育センター
- 平成17年3月 『異文化コミュニケーション研究法 テーマの着想から
論文の書き方まで』有斐閣 共著
- 平成20年4月(予定) 『日本文化論キーワード』共編著, 有斐閣

Ⅱ. 論文

- 昭和55年4月 「日本人に国際性はあるか」『神戸青年 1980年代への提言』神戸キリスト教青年会出版 1980年4月号
- 昭和56年4月 「日本的コミュニケーション型の国際性：良寛『戒語九十ヶ條』と比較して」『英語教育』1981年12月号 大修館書店
- 昭和63年3月 「文化の生成過程：その1——情報代謝モデルを考える——」『桃山学院大学社会学論集』第21巻第2号 1988年3月
- 昭和63年7月 「文化の生成過程：その2——情報淘汰とコミュニケーション型——」『桃山学院大学社会学論集』第22巻第1号 1988年7月
- 平成元年3月 「日本文化と両立型コミュニケーション」『異文化コミュニケーション研究』創刊号 平成元年3月 神田外語大学異文化コミュニケーション研究所
- 平成6年6月 「The Japanese Pattern of Intercultural Communication: The Indigenous vs. the Seaborne or Kochira vs Achira」『異文化コミュニケーション Newsletter: Intercultural Communication』No.19 平成6年6月 神田外語大学異文化コミュニケーション研究所
- 平成7年5月 「日本的コミュニケーションの元型——民族史的考察——」『異文化コミュニケーション研究』第7号 平成7年5月 神田外語大学異文化コミュニケーション研究所
- 平成12年3月 「日本語定型詩のリズム～5音と7音をめぐって」『桃山学院大学国際文化論集』第21号 平成12年3月

平成20年3月 「日本のコミュニケーション再考——インターモーダル・コミュニケーションをめぐる——」『桃山学院大学国際文化論集』第37号

Ⅲ. 翻訳・口頭発表・研究ノート・書評・その他

- 昭和56年6月 口頭発表・「異人考」地域文化学会研究会
- 昭和56年10月 口頭発表・「日本のコミュニケーション型の国際性」大学英語教育学会年次大会
- 昭和57年10月 書評 富岡多恵子著『「英会話」私情』日本ブリタニカ、1981.9『英語教育』1982年5月号 大修館書店
- 昭和59年6月 口頭発表・“Communication Patterns: A Metabolic Approach” 日本太平洋コミュニケーション学会年次大会
- 昭和61年9月 口頭発表・「日本の情報システムの変遷」高度情報化協会・大阪府21世紀協会主催 高度情報女性シンポジウム 第3分科会
- 昭和63年7月 口頭発表・“The Process of Cultural Morphogenesis: An Information-Metabolic Approach” 異文化コミュニケーション研究会第13回例会
- 昭和63年10月 口頭発表・“Speaking English: A Japanese Point of View — A Case Study of 28 Years” A Colloquium Key-note Presentation at Japan Association of Language Teachers Annual Convention, Kobe, 1988.
- 昭和63年12月 口頭発表・「国際文化学科のカリキュラムについて：大学の立場より」大学英語教育学会中国四国支部研究会シンポジウム「国際学科の目指すもの：高校、短大、大学の立場より」

- 平成元年6月 口頭発表／司会・「異文化間コミュニケーション教育——何をどう教えるか」日本コミュニケーション学会第19回年次大会シンポジウム
- 平成元年11月 口頭発表・発題 “Can Interculturally-Competent Persons Be Developed in Japanese Education?” 異文化コミュニケーション研究会第17回例会シンポジウム。
- 平成2年5月 口頭発表・「社会学から見た日本のコミュニケーションの類型 日本文化の安定と変化：対立回避の仕組み」日本コミュニケーション研究者会議
- 平成2年8月 口頭発表・“English Education and Intercultural Communication: Some Implications” 大学英語教育学会年次大会
- 平成3年6月 口頭発表・発題・「シンポジウム「大学英語教育の改革」「ランゲージ・センター」の可能性とカリキュラム改革について」大学英語教育学会関西支部年次大会
- 平成3年8月 口頭発表・発題・シンポジウム・「英語教育で英語圏文化をいかに教えるべきか——英語の国際化と多様化の中で新しい視座を求めて——」「インターカルチュラル時代の英語教育：「文化」的視点より」大学英語教育学会全国年次大会
- 平成3年9月 口頭発表・発題・シンポジウム「大学における異文化コミュニケーション論の教育と方法」単・共同 神田外語大学異文化コミュニケーション研究所
- 平成3年12月 研究ノート・「日本文化の安定と変化——日本のコミュニケーションにおける対立回避の仕組み——」『桃山学院大学国際文化論集』第5号, pp.143-159
- 平成4年1月 書評・J・プラット, H・ウェーバー, H・M・リアン

- 著 飯島 周訳『“新英語”の実相』松柏社『現代英語教育』1992年1月号 研究社出版
- 平成4年9月 書評・G.P.Skabelund, S.M.Sims 編 古田 暁 編訳『カルチャーグラム102 世界文化情報事典』大修館書店
『JACET 通信』No. 85 大学英語教育学会
- 平成5年1月 口頭発表・「異文化交流のコチラ側——日本のコミュニケーションの源流を探る」神田外語大学異文化コミュニケーション研究所研究会
- 平成5年1月 口頭発表・“Affirmation and Negation: An Information-Metabolic Model”「否定と肯定：情報代謝モデルを求めて」SIETAR-Japan 関西支部研究会
- 平成6年4月 口頭発表・「外国語学習と異文化間コミュニケーション」神戸 YMCA ランゲージセンター研究会
- 平成6年6月 口頭発表・“Communication and ethics: a view from Japan—Japan and East Asia”日本コミュニケーション学会第24回年次大会シンポジウムにおける発題
- 平成6年9月 口頭発表・「外来文化の受容過程——A Phylogenetic Approach——」, 幕張夏期セミナーにおける基調発題 神田外語大学異文化コミュニケーション研究所
- 平成8年11月 口頭発表・「日本のコミュニケーションの特徴と問題点」大学英語教育学会関西支部談話分析研究会
- 平成9年1月 口頭発表・「日本のコミュニケーション：その特性と問題点」国際日本文化研究センター共同研究会
- 平成9年9月 口頭発表・「異文化コミュニケーション理論化への一試論」神田外語大学異文化コミュニケーション研究所
- 平成10年6月 口頭発表（講演）・「文化の古層とコミュニケーション型

- ～日英の異文化受容をめぐる」姫路獨協大学講演会
- 平成11年9月 研究ノート・「日本語定型詩のリズム：5音と7音をめぐる」[1]～日本人のリズム感を支えるもの」月刊誌『オール川柳』10月号 葉文館出版
- 平成11年10月 研究ノート・「日本語定型詩のリズム：5音と7音をめぐる」[2]～日本語のリズム感を支えるもの」月刊誌『オール川柳』11月号 葉文館出版
- 平成11年10月 口頭発表（講演）・「大阪人のコミュニケーション～大阪人の発想の原点を求めて」桃山学院大学・大阪府立情報文化センター共催 連続 公開講座『日本の創造性・大阪の独創力～起業家を育む風土』
- 平成11年10月 口頭発表（講演）・「もっとも近くて遠い国～日本のコミュニケーションの国際性」堺・和泉市民大学公開講座 堺市教育委員会
- 平成12年1月 研究ノート・「日本文化論ノート(1) カミとホトケ」『月刊オール川柳』2000年1月号
- 平成12年2月 研究ノート・「日本文化論ノート(2) わかる」『月刊オール川柳』2000年2月号
- 平成12年2月 研究ノート・「日本文化論ノート(3) 両立型コミュニケーション」『月刊オール川柳』2000年3月号
- 平成12年4月 研究ノート・「日本文化論ノート(4) 対立と分立」『月刊オール川柳』2000年4月号
- 平成10年9月 口頭発表・「なぜ「日本」か——コミュニケーション研究の関門として」神田外語大学異文化コミュニケーション研究所
- 平成12年5月 研究ノート・「日本文化論ノート(5) 「明・浄・正・直」

- 再考]『月刊オール川柳』2000年5月号
- 平成12年6月 研究ノート・「日本文化論ノート(6) 日本の色」『月刊オール川柳』2000年6月号
- 平成12年7月 研究ノート・「日本文化論ノート(7) 日本回帰」『月刊オール川柳』2000年7月号
- 平成12年9月 口頭発表・「仏教・キリスト教伝来と日本社会」2000年9月 神田外語大学異文化コミュニケーション研究所
- 平成12年6月 口頭発表(講演)・「「関西」人と「東京」人～小さな異文化コミュニケーション」神田外語大学異文化コミュニケーション研究所公開講座 神田外語大学
- 平成12年11月 口頭発表(講演)・「日本のコミュニケーションの国際性：最も近くて遠い国・日本」神戸YMCA国際センター公開講座 神戸YMCA
- 平成14年6月 口頭発表・発題・「多文化関係の研究と教育——新しいパラダイムを求めて——」, 「異文化交流史の視点から」多文化関係学会設立総会記念シンポジウム 青山学院大学
- 平成14年11月 口頭発表・司会と発題・「多文化関係のダイナミックス——関係性から文化を問う」多文化関係学会第1回年次大会シンポジウム 立教大学
- その他